

# 令和元年度第1回遠野市総合計画審議会

## — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 令和元年8月6日(火) 午後1時30分～3時30分
- 2 場所 遠野市役所本庁舎 大会議室
- 3 出席者

(1) 委員

|                    |       |            |
|--------------------|-------|------------|
| 社会福祉法人遠野市社会福祉協議会   | 臼井悦男  |            |
| 一般財団法人遠野市教育文化振興財団  | 及川旺子  |            |
| 遠野市消防団             | 松田克之  |            |
| NPO法人遠野エコネット       | 千葉和子  |            |
| 一般社団法人遠野市医師会       | 千葉純子  |            |
| 遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会 | 菊地セツ子 |            |
| 遠野市体育協会            | 河野好宣  |            |
| 遠野市民生児童委員協議会       | 菊池一晃  |            |
| 遠野市わらすっこ支援委員会      | 松田希実  |            |
| 花巻農業協同組合           | 菅原一雄  |            |
| 遠野地方森林組合           | 濱田平八郎 |            |
| 一般社団法人遠野市観光協会      | 三浦芳昌  |            |
| 遠野商工会              | 佐々木弘志 |            |
| 遠野市校長会             | 小向敏夫  | (代理 細川 昭子) |
| 遠野市PTA連合会          | 菊池圭一郎 |            |
| 遠野市郷土芸能協議会         | 佐々木國允 |            |
| 遠野市区長連絡協議会         | 内館充幸  |            |
| 遠野市地域婦人団体協議会       | 海老糸子  |            |
| 県南広域振興局            | 鈴木一史  | (代理 多賀 聡)  |
| 地域づくり団体            | 高宏美鈴  |            |
| 遠野市金融団             | 畑山英己  |            |
| 遠野ひまわり基金法律事務所      | 沼徳之章  |            |
| 遠野テレビ              | 佐々木浩  |            |

(2) 遠野市

|             |       |
|-------------|-------|
| 市長          | 本田敏秋  |
| 副市長         | 飛内雅之  |
| 総務企画部長      | 佐藤浩一  |
| 経営企画担当部長    | 菊池享   |
| 健康福祉部長      | 鈴木英呂  |
| 子育て応援部長     | 佐々木一富 |
| 産業部長        | 中村光一  |
| プロジェクト担当部長  | 阿部順郎  |
| 環境整備部長      | 奥寺国博  |
| 市民センター所長    | 小向浩人  |
| 教育部長        | 澤村一行  |
| 消防本部消防長     | 菊池久人  |
| 会計管理者       | 鈴木純子  |
| 総務企画部総務課長   | 伊藤貴行  |
| 総務企画部政策担当課長 | 白岩克己  |
| 総務企画部財政担当課長 | 海老寿子  |
| 総務企画部政策担当   | 佐々木利幸 |

・ 箱山大樹

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 委員及び職員紹介
- 5 報告
  - (1) 各種施策等の取組状況について
  - (2) 令和元年度岩手県知事への要望内容について
- 6 審議
  - (1) 第2次遠野市総合計画前期基本計画(H28～R2) 平成30年度まちづくり指標実績について
  - (2) 遠野スタイル創造・発展総合戦略 平成30年度重要業績評価指標(KPI)等について
  - (3) 第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略について(案)
- 7 閉会

(配付資料)

- 1 次第、名簿
- 2 主要な施策等の取組状況について …報告資料 No.1-1
- 3 各種施策等の取組状況について …報告資料 No.1-2
- 4 令和元年度岩手県知事への要望概要について …報告資料 No.2
- 5 第2次遠野市総合計画前期基本計画(H28～R2)  
平成30年度まちづくり指標実績概要について …審議資料 No.1-1
- 6 第2次遠野市総合計画前期基本計画(H28～R2)  
平成30年度まちづくり指標実績概要について …審議資料 No.1-2
- 7 遠野スタイル創造・発展総合戦略  
平成30年度重要業績評価指標(KPI)概要について …審議資料 No.2-1
- 8 遠野スタイル創造・発展総合戦略  
平成30年度重要業績評価指標(KPI)の実績について …審議資料 No.2-2
- 9 地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金  
・地方創生応援税制の平成30年度KPIの実績について …審議資料 No.2-3
- 10 第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略について(案) …審議資料 No.3-1
- 11 まち・ひと・しごと創生基本方針2019について …審議資料 No.3-2

\*1～4、11は当日配布。

(議事概要)

1 開会

○白岩政策担当課長

本日は、お忙しい中、遠野市総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和元年度第1回遠野市総合計画審議会を開会します。私は、政策担当課長の白岩と申します。どうぞ、よろしくお願ひします。

本審議会には、各団体から推薦をいただいた、代表者の方々を含めて委員を構成しておりますが、年度の異動等により、新たに推薦いただいた3名の皆様をご紹介します。

一般社団法人遠野青年会議所 小松正真様。遠野市校長会 小向 敏夫様。なお、本日は、遠野中学校サッカー一部が東北大会出場のため、代理として、細川昭子様にご出席いただいております。

ります。次に、遠野市金融団幹事行として、岩手銀行遠野支店長 畑山英己様。以上、3名の皆様になります。

なお、皆様には、時間の都合上、お手元に辞令書を配付させていただいておりますので、ご了承ください。

## 2 市長あいさつ

### ○市長

今日は8月6日。75年前に原爆が初めて投下された日に当たる。風化という言葉があるわけだが、改めてこれをしっかりと受け止めながら、次の世代に悲惨な出来事を語り継ぎ、二度と起きないような環境も、我々なりに取り組んでいかなければならない。

一方で、東日本大震災から8年5か月という時が経過した。風化という言葉が現実味を帯びてきていると言われている。遠野市民が気持ちを一つにして、被災地の皆さんとしっかりと向き合ったことが、様々な形で、色々な人たちから評価をされ、その仕組みを大事にしていかなければならないという中で、全国の市町村の仲間の方々も夏休みを利用して、遠野を視察し、被災地に向かうという動きが活発に出てきていることも、委員の皆様にもご報告したいと思う。

先般、静岡県副市長の方々全員が遠野にお越しになった。様々な形で、遠野の取組を改めて受け止めながら、しっかりと静岡としての首都圏、東海、東南海、南海といった連動型の災害に向き合わなければならないという想いも述べて帰っていった。そのようなことも皆で共有しながら、対応していかなければならないかと思っている。

今日は、令和元年度第1回目の審議会である。先ほど司会から紹介があったとおり、4月の人事異動によって、若干の委員の入れ替えがあったということで、3人の方のご紹介があった。本来であれば辞令交付をしなければならないが、お手元に辞令を差し上げているのでよろしくお願ひ申し上げたい。

総合計画、総合戦略、一方5年前に「まち・ひと・しごと総合戦略」という言葉、「産学官金労言」という言葉が盛んに取り交わされた。この言葉は、これからの地方が、しっかりと底力を示すためには、「産学官金労言」という一つの仕組みを、しっかりとしたものを持っていくために、力として示せというものがあつた。今日の委員の皆様の顔ぶれを見れば、産学官金労言の立場の方々が一堂に介しているという事になる。金融団の皆様も、地方創生の中で、財源、資金、そのようなものを、基礎自治体と言われる市町村に、様々な仕掛けを行っている。

地方創生法、まち・ひと・しごと総合戦略も5年経過した。今年度は計画としての最後である。令和2年度は2期計画を策定しなければならない。その2期計画に、どのように遠野市として対応していくかとなれば、これまでの5年間をしっかりと総括しなければならないことに尽きる。総合計画、総合戦略、地方創生法の2期計画の中に、どのように臨んでいくかという部分において、それぞれの総括の進捗状況がどうなっているか。総合戦略に基づく戦略プランはどのように進行しているのか。さらには、地方創生法の5年間がどのような状況であったのかということについて、委員の皆様にご報告、ご説明申し上げながら、令和という時代の中での新たな遠野の姿を、委員の皆様ともども見出してまいりたいと考えている。

一方、令和という元号が変わったことによって、新たな制度、新たな仕組み、新たな可能性に挑戦するという動きが、全国各地で出てきている。そのような意味において、地方創生法の2期計画に基づく計画は、会長のお許しをいただき、委員の皆様の中から小委員会を立ち上げながら、しっかりとした内容の議論を深めていければと思っているところである。その辺についても協議いただければと思う。

先日、県への統一要望ということで、市と市議会が一緒になって、18項目27件の市政課題について要望を行った。県でもしっかりと受け止めながら、議論をしてもらえるわけであるが、そのためには、市民一丸となって市政課題に取り組んでいかなければ、国、県の応援はなかなか得られないという事になるわけなので、敢えて申し上げてご協力を申し上げたい。

人口減少にはなかなか歯止めが掛かっていないものの、交流人口、関係人口という中から遠野の活性化を見出していかなければならないと思っている。高速道路が釜石から花巻まで全通した。宮古、遠野間も2つのトンネルでしっかりと結ばれた。大きく人と車の流れが変

わってきている。皆様の大変なご協力のおかげで、風の丘の入込も順調に推移してきているが、売上の確かな手応えに持ち込めないというもどかしさもある。間違いなく遠野の存在感をしっかりと、市、内外に示されているということをお願いしておく。

ブラジルのブラインドサッカーの選手団の皆様は、遠野市民から大変な元気と勇気をいただいた。来年のパラリンピックの本番では、遠野に来たいのだが、その決定権は本国にある。本国に戻ったなら、遠野に行きたい、何としても遠野に来たいのだということと話していた。大きな要因は、遠野の子ども達であった。市内の中学校、高校、小学校の児童・生徒が、子ども達から広めよう、違いを知る、違いを尊重する、違いと絆がるという切り口の中で、ブラジル選手団の皆さんとしっかりと向き合っていたいただいたという事が、選手団の感動を呼び、涙を残して帰国していったという事を報告しておきたい。

子どもたちの未来、子ども達の姿が遠野の大きな活力になっているとすれば、子育てするならば遠野の環境づくりに、さらに力を入れなければならないということ、合宿の中で改めて学んだということをお伝えしたい。最初の審議会ということで、少々長めになってしまったが、私の想いを申し上げて挨拶とさせていただきます。

### 3 会長あいさつ

#### ○臼井会長

およそ1年ぶりの委員会である。この1年間、様々な出来事があり、遠野テレビや広報遠野でも知ることができている。力強く歩んでいることに敬意を表したい。事細かに色々なことが知ることができるかといえ、必ずしもそうではない実態もあるのかなと思っている。審議会は、市の総合的な計画作り、推進、そして評価をすることを身分としている。

本日は進行に関して3件がテーマである。それぞれの説明があり、そのあとにそれぞれ審議会の委員の皆様からご意見をいただくことにしている。議論する時間もたくさん取っているので、日頃感じていたこと、説明を聞いて思ったこと、あるいは不思議に思っていることなど、様々発言をしていただき、議論を通して審議会の役割を果たしてまいりたいと思っているので、よろしく願いたい。

### 4 委員紹介・資料確認

#### ○白岩課長

本日の会議には、25名中、代理を含めて23名が出席。なお、欠席の報告については、地域づくり団体選出の佐々木栄洋委員が本日都合により欠席となっている。代理出席は、県南広域振興局から企画推進課長の多賀課長に出席頂いている。市の出席者については、別添資料に記載しているので、省略させていただきます。(配付資料の確認。会議日程の説明。)

### 5 報告

#### ○臼井会長

報告に入ります。1と2を一括して報告をお願いします。報告をいただいた後に、まとめて皆さんからご意見をいただきたい。

#### ○菊池経営企画担当部長

報告1 各種施策等の取組状況について

報告2 令和元年度岩手県知事への要望内容について

#### ○臼井会長

ただいま説明していただいた事項について、ご質問があればご意見をいただきたい。

#### ○佐々木弘志委員

2つお願いがある。当日配付の資料が多すぎるので、できるだけ事前に配付をお願いしたい。会議の招集は結構だが、会議の終了の明示をお願いしたい。

P5、P6について、前からお願いしているが、役所の資料はカタカナが多すぎる。SIBについては説明がない。KPI、KGIについても同様である。市民に分かるようにしていただきたい

い。

P20 で、地域おこし協力隊の事業がやられているが、収益に対して利益を出した場合に、一方的に補助金を出している感じを受けるので、その辺がどのようになっているかということがある。

P38 のみらいづくりカレッジの最後に、収支状況を報告するとあるが、左下には収支の支出が入ってない。後の回答でも結構だが、気になったのでお話ししておく。

○菊池経営企画担当部長

資料の配付については、以前もご意見を頂いているので、心がけたいと思っている。カタカナ語については、説明を加えながら資料の整理に努めたい。なお、SIB については、ソーシャルインパクトボンドの略で、民間資金を活用した官民連携による課題解決の仕組みの略となっている。

P6 のKGI は、キープオブインジケータの略で、経営目標達成指標ということになる。

○阿部プロジェクト担当部長

地域おこし協力隊は、基本的に起業が認められている。遠野市の場合は、全国第1号の起業型の地域おこし協力隊ということになる。一定の助走期間として、収入を得ながら隊員としての活動ができるというように、担当の総務省が認めている。問題は、いくらまでなら良いかという事になるが、各市町村が主体的に考えることとされている。農業の青年就農給付金を例にあげると、所得で400万円のラインとなる。その辺を内規において、来年度からの採用に向けて、市としての方針を定めていくことになる。担当の考えでは、400万円の所得を超えなければ、隊員としての活動ができるというように考えている。

○小向市民センター所長

みらいづくりカレッジの食育カフェの収支状況と書いていながら、総計しか書いていない指摘をいただいた。支出については20日足らずのため算出できかねているので、収支状況を報告するという点を修正させていただき、今回は売上の額だけをお示しさせていただく。

○千葉委員

時間が限られているので、次の点になるが、述べさせていただく。わらすっこケアは初期3歳から話をしており、周産期は出産までの取組で話をしている。岩手県の医師会でも、少子化対策は大分やられており、0歳から3歳までが大事。そこと、非認知能力というが、子ども達のケアが大事といわれている。また、産後うつも多い。わらすっこ周産期の間のケアを、もっと遠野市で深めていただければという意見である。

○佐々木子育て応援部長

遠野市の特色の一つというのは、家族、地域がみんなで子育てを支えるスタイルが重要だと思っている。保護者、当事者以外にも、今後は、関わった家族、孫育てまで、一つステップアップしたいと考えている。

○臼井会長

お一人お一人、聞きたいことは沢山あると思うが、ひとまず整理をさせていただく。終了時間については、2時間程度というになっているので、進めていきたい。

次に審議事項に入らせていただく。

○菊池経営企画担当部長

審議1 第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2）平成30年度まちづくり指標実績について …審議資料No.1

審議2 遠野スタイル創造・発展総合戦略平成30年度重要業績評価指標（KPI）等について …審議資料No.2

○臼井会長

只今の説明について、質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○千葉和委員

昨年も審議会に参加して感じたが、総合計画というのは、まちづくり指標はごく一部で、膨大な量の物があったと思うが、実際の審議は指標だけで、市民に公表するのも達成率だけでよいのか、という素朴な疑問があるが。

○菊池経営企画担当部長

計画そのものは相当なボリュームがある。数値が見える化できるものということで、それぞれの分野間に指標を選び、それについて見える化をしているという状況である。次の計画に向けても、全てを見える化できるということにはならないが、できるだけ多くの計画の中から指標を選んで、公開をしていきたいと考えている。

○千葉和委員

今後後期も始まると思う。指標が重要になると思うので、指標の設定の時間も割いてもらった方がよいと思う。審議が指標を中心として行われるとなれば、どれを指標にするかということが、大事になってくると思うので、よろしくをお願いしたい。

○臼井会長

今の点については、要望事項として承りたい。

○佐々木國允委員

未達成 34 指標の分析のところ、No.28 と No.30 の特定検診の受診率が低いところについて、これだけをやるのではなく、例えば、このような何を食べてどのような生活をすればよいかというような講演、食事の準備の研修をやって、その結果、受診をするという事になれば、流れが当たり前と感ずる。たまたま受診をして、何を食べたのかわからないが、検査をして見つけた流れだと思うが、そうではなく、何をどのように食べて、どのような生活をすればよいかというような、講演や勉強をして生活をすることで受診をすれば、もっと真剣な取組になると思う。工夫、呼びかけをして、受診に結び付けるという流れがよいのではないかと考える。段階については、子どもでも大人でも、どの段階でもよいので、市として必要ではないかと思う。

総合計画の中に事業があるが、達成されれば市民の負担が軽くなるというものもあると思う。今負担になっているのは、医療費がはっきりしていると思う。例えば、血圧の薬を飲んでいる人が飲まなくなるようになれば、それだけで市民の負担が軽くなると思われる。実際にそのような取組をしている実践例は、福島県の浪江町、岩手県では滝沢市で6月2日に取組を始めたと聞いている。私自身も盛岡のネットワークに会員として入っているの、遠野市としても是非そのような取組をしていただきたい。併せて、図書やDVDの資料をまとめたものを、できるだけ市民に勉強してもらうことも必要なのではないかと。取組をすることによって、受診率を高めることに繋がるのではないかと考えている。

もう1点は、芸術文化の参加者数が減少しているが、自分の地域でも感じている。祭りをやっても、以前のくらい人が集まってこないという現状がある。即、地域づくりにも関わりがあることである。まもなく遠野祭りが始まるが、県の指定を受けている団体でも、出られない状況にある団体も出てきている。中学校の訪問も進めてきたが、学校が地域からなくなると、他人事みたいに感じてしまうところがあると感じる。生活の仕方も、以前とは違って便利な生活に流れてしまうので、その地域からいなくなるということで、このような伝承が、現代的な生活の仕方になって、どんどん減ってきているのではないかと思う。家にいても、色々な情報があるので、出なくても楽しめるという事もあるかと思うが、取組をしてほしいと感じるのは、文化的な価値への取組である。社会的な価値、金銭的な価値、資料的な価値について、市民がもう少しわかるような取組をする。簡単に言うと、しし踊りでは、包括指定で遠野市のしし踊りを国の指定にしたいという取組をしているが、このような形で取り組むことで、それぞれ関係するところ、地域の人たちが機運に乗ってくる、熱意が出てくるみたいな形がないと、大事な文化も消えていくのではないかという想いがある。

避けては通れない小学校の統合も、人口減少によって出てくると思う。今からそうした取組をしていく必要があるのではないかと懸念している。

○鈴木健康福祉部長

特定健康受診率は、例年話しているところであるが、目標値の60%という設定は、国が示している目標値で、なかなか簡単にはそこに到達できないというのが実際のところである。昨年度と比較すると、未達成ではあっても、ポイント的には受診率もアップしている。特に特定保健指導等は、ある程度、土曜、日曜、夕方の検診。冬場に追加で受診させている。佐々木委員から健康づくり講演会などをもっとやるべきというお話であるが、遠野市の保健推進委員、食改協の皆さんなどからお声がけを頂いて、地区担当の保健師が行政区や集落単位での健康づくりに呼ばれたり、押しかけたりするような形で勉強会等を開催させて頂いている。そこには、保健推進委員、食改協の皆さんのご協力があってやっている。その辺は、もっと行っていきたいと思っている。

医療費の削減をすることで、見える化できるのではないかという事については、単純な医療費の比較ができないというのが実際のところである。例えば、インフルエンザが流行った年、他の病気が流行った年など、市民全体を比較するというのは難しいところ。先ほど前段に説明した、主要な施策の取組状況の中で、ICT健康づくり事業というのをやっている。歩くことで健康づくりをしましょうという事で、1日8,000歩を目標としている。歩いて健康づくりを行った人と、しなかった人との差では、年間約7万8,000円の医療費の効果があるということをお知らせしたところである。これについても、色々な方の協力を頂いて、ここまでわかった。それらを含めて、分かった数値をもっとPRをしていきたい。

今年11月24日に、市民健康講座という事で、市民を対象にした健康づくりを予定しているので、そちらにも参加いただきたい。

○小向市民センター所長

市民協働の芸術文化事業への参加者数が少なくなっているということについて、減少しているのはそのとおりであるが、微増ではあるが前年度より増えている。委員が仰るとおり、参加者の固定化、高齢化傾向にあり、芸術文化、郷土芸能をやる人が増えないという現実はある。しかし、芸術文化は生活を豊かにするもので、子ども達の郷土愛を育てる格好の物だと思っている。関係機関・団体とより一層連携しながら、芸術文化事業を企画して、長期的に芸術文化事業に携わることが出来るように取り組んでいきたい。

○三浦委員

河川清掃に先日参加したが、私を含めて10名程度の参加者であり、この広さをどのように刈るのかという状況があった。高齢化が進んで参加不能の世代が増加傾向にあると書いてある。私の班だけで8軒あるが、そのうち出てくるのは2軒だけ。自分達の住んでいる河川の清掃をやらなくなってきているのは、高齢化だけではなく、若い世代の人たちがだんだん出なくなってきている。出たくないのか、面倒くさいのか、誰かがやってくれると思っているのか、いずれ参加者で話をしたが、大変なことだと思っている。草はどんどん生えてくる。子どもたちは地区活動でゴミ拾いをしているが、草刈はほとんどできないで終わった。大工町だけという観光コースにもなっているので、環境にもよくないと思っている。来年度以降もどんどん減っていくと思うが、どのように河川清掃を進めていくのか、美化活動を推進していくのかという事をお聞きしたい。

○奥寺環境整備部部長

市内河川清掃の参加者については、先日の日曜日にも作業をしていただいているが、この傾向は続いている。公衆衛生連を通じた状況を聞いているのが、高齢者の方が参加しなくなっている状況がある。県では、若い方が出やすくするために、草刈機械を貸出したり、利用の仕方を説明したりしている。手鎌では進まないが、機械では一気にできるという事がある。県と協力しながら草刈機械については取組を始めているところである。基本的には、参加率が下がってきている。高齢化率と直接連動はしていないが、地区によっては、高齢者の参加は免除しているところもあり、仰るとおり若い方が出こないということもある。参加しやすい環境についても考えていきたい。

○三浦委員

一度河川を見ていただきたい。もう一度やらなければならないのかとも思っている。時間的なものもあるが、環境的には良くないと感じている。何回かやってもよいとは思っている。

○奥寺環境整備部部長

ありがたい発言ではある。ただ、県から補助金をいただいております、地区にお願いしている

のは、年1回のところで無理なくできる範囲をお願いしている。無理をして来年からはやりたくない、というようにならないように、できる範囲でよいかという話は、公衆衛生連からも出ている。出来る範囲を目が届く範囲でやってもらうことも、一つの考え方だと思っている。何度かやっていただくのは、非常にありがたいことである。

○河野委員

報告事項の資料も事前に拝見できればありがたい。まちづくり指標の No75、高校生の就職率について確認したい。市内求人数 123 人に対して就職者数が 26 人と充足率は 20%程度と非常にもったいない状況だと思っている。就職率は 100%であるが、KPI の実績を見ると、新規学卒者の雇用の部分で、大学生、専門学校、市外の高校に進学した高校生について、83 人に対して、40 人となっている。地元高校生の数値と全体を見た場合の数値が矛盾していると感じる。

市外に出た卒業生に対する情報共有、PR をすることによって、転出先から地元に戻って就職するという人も出てくるのではないかなと思う。そのような取組をしているかどうかお尋ねしたい。

○中村産業部長

高校1年生の時から企業見学会、高校2年生の時には、市内の両高校生がインターシップを行っている。高校3年時には、就職ガイダンスを市内の企業と高校生に集ってもらい、ブースを設けて、企業の担当者から説明を行っている。今年市内の高校生の市内就職者数は 26 名となっている。北上付近の大きな企業に流れた学生が多かった。例年は 40 人程度で推移していることから、今年度はイレギュラーな状況であったと思う。引き続き、市内にどのような企業があって、どのようなことをやっているのかを、企業見学会、インターンシップ、ガイダンスを丁寧に実行して、高校生に市内の企業の魅力をわかっていただくことで、取り組んでいきたい。

○河野委員

市内の高校はわかるが、東京の大学や私立の高校に行った生徒をフォロー、PR するような情報共有をされているかということをお聞きしたが。

○中村部長

東京の大学に就職された学生向けには、遠野市に限ると厳しくなるので、岩手県が主催で、首都圏を会場に「ふるさと発見隊交流会」などで、大学生を対象とした企業の相談会が開催されているので、それに遠野市の企業が参加して、情報提供を行うなどしている。

○河野委員

大学に行って、個別に意思疎通を行うようなことはしていないということか。

○中村部長

高校生の進路については、以前であれば高校から情報を得られやすかったが、個人情報の関係もあり、直接情報が来にくい状況にある。そのようなことから、直接情報を得ることはできないが、高校を通じて情報提供を行うなどの方法により取り組んでいるところである。

○河野委員

これだけの求人があるが、わずか 26 人だけということで、企業の体質、規模にもよるとは思うが、貴重な人材を地元に残して欲しいというお願いである。

○臼井会長

年度の事業を資料だけかという発言もあったが、まとめて、これから、市民公表する段階で、各分野から選出された委員の意見をいただいたという事になるので、ご意見はいかがか。

○菅原委員

畜産関係で、No59 から No63 がかなり未達成になっている。高齢化が一番問題になってくるとは思っている。若い方々は、新規就農でホップなどの耕種が多い。畜産に行政として力を入れて、割合を上げるように行政としても努力していただきたい。市内では JA だけでも 30 億円の畜産の売上がある。その他に個人で売っている方の売買もあると思う。畜産が一番大きいことから、改めて力をいれていただければありがたいと思う。

○中村部長

No.59 から No.63 の項目が未達成という状況となっている。高齢化もあって畜産の農家の数が減っているという状況にある。ただし、遠野市の素牛に力を入れているが、以前は 30～40 万円だったのが、ここ最近では 67～70 万円代で推移しており、畜産関係に是非力をいれな

ければならない好機と思っている。畜産振興公社と一体となって、畜産農家の裾野の広がりや経営環境の改善に取り組んでいきたい。

○臼井会長

質疑は以上のようなので、次に審議事項の3について説明をお願いします。

○菊池経営企画担当部長

審議3 第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略について（案） …審議資料 No.3

○臼井会長

このような形で進めたいという説明でありました。今の件について、何かご質問ありませんか。

（質疑なし）

産学官金労言の分野からとなっているが、例えば労の労働単体については、それぞれの分野の方が委員に含まれているということでしょうか。

○菊池経営企画担当部長

労働団体とはなっていないが、関連する委員の方は含まれている。

○臼井会長

全体としては、2月の審議会にお諮りすることになっているので、よろしくお願ひしたい。

審議事項はひとまず終了して、その他に入らせていただきたい。事務局にお願ひしたい。

○内館委員

資料の印刷方法が、裏面がみにくい資料がある(A3の両面印刷が長編綴じになっている)ので、次からは一考してもらいたい。

○白岩政策担当課長

資料印刷については次から改善したい。

○臼井会長

短時間の中で、全員の発言を頂けない部分があったので、会長としても今後考えていきたい。

○白岩政策担当課長

審議事項のその他について2点、市民センターの石田参事から情報提供をさせていただく。

○石田市民センター参事

文化研究センター事業の子守唄と民謡、安藤忠雄後援会について情報提供

○市長

長時間にわたり、大変活発な議論をいただきありがとうございます。令和という元号の新しい時代に入った中で、皆さんのお手元に、基礎自治体の市町村の中で、6つのキーワードがある。①地方への人・資金の流れを強化する、②新しい時代の流れを力にする、③人材を育て活かす、④民間と協働する、⑤誰もが活躍できる地域社会を作る、⑥地域経営の視点で取り組む、というキーワードの資料をお手元に配らせていただいた。遠野のまちづくりそのものではないかと思っている。私も、成人者、高校生、中学生と向き合ったときに、よく話をする言葉がある。江戸から明治に入って150年。150年前に有名な思想家である教育者である吉田松陰先生が、「夢なきものに理想無し、理想なきものに計画なし、計画なきものに実行なし、実行なきものに成功なし、ゆえに夢なきものに成功なし」という言葉を残している。委員の皆様には、膨大な資料の中で、様々に取り組んでいる内容、経過をご説明申し上げた。先ほど申し上げたとおり、6つの視点の中で、遠野のまちづくりに取り組む。また一方、市町村間の連携を強化し、国県と整合性をとっていくということで、活性化が図られるのではないかと思っている。計画とそれに基づく様々な取組が大事である。委員の皆様には、今日提出した資料について、しっかりと目を通していただいて、市にしての叱咤激励、ご指導をよろしくお願い申し上げます。皆さんの力が民間と協議をしながら誰もが活躍できる地域社会、地域経営、人材を育て活かすということにつきると思う。益明けには議会にも同じような資料を提出しながら、9月定例会でも議論を深めていかなければならない作業が待っている。改めてご協力とご指導を申し上げて、特に臼井会長には、地方創生の計画作りに小委員会を立ち上げることによろしくお願い申し上げます、終わりにあたっての感謝の言葉に代えさせてい

ただく。

○白岩政策担当課長  
以上を持ちまして、終了とする。